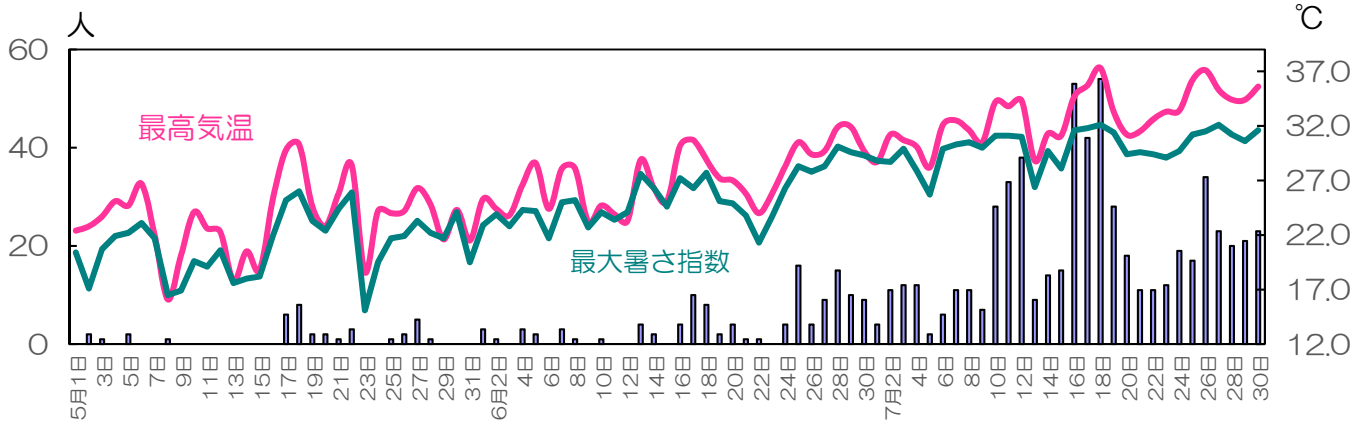


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和5年5月1日～7月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計753人（5月37人、6月117人、7月599人）でした。7月10日以降、最高気温が35℃（猛暑日）・暑さ指数31℃（危険）を超える日もあり、搬送数も増加しています（7月18日は、最高気温37.3℃・暑さ指数32.1℃で、54人でした）。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。連日の猛暑で、体調を崩したりする事がないように、厳重な警戒が必要です。こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



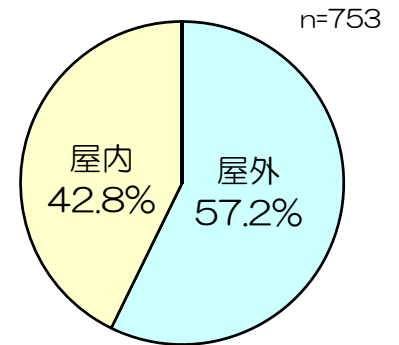
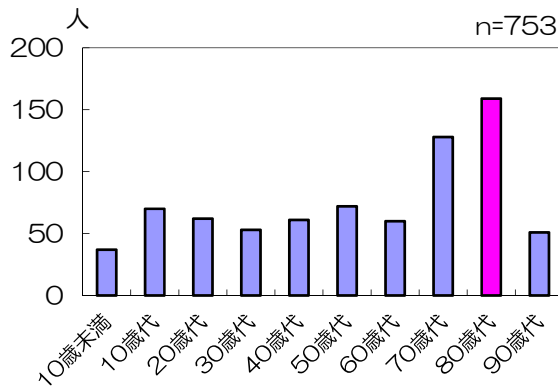
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

80歳代が159人（21.1%）で最も多く、次が70歳代で128人（17.0%）でした。

## <発生場所>

屋外57.2%、屋内42.8%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症60.2%、中等症36.8%、重症2.5%、重篤0.5%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が55.2%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

